

景 気 動 向 調 査

(第 130 回)

2003 年 4 月 ~ 6 月 期 実 績

2003 年 7 月 ~ 9 月 期 予 測

株 式 会 社 北 日 本 銀 行

経 営 企 画 部

目 次

調査要領	1
概 況	2
1．県内景況感について	4
2．業況について		
(1) 売上高または出荷高	5
(2) 生産高または仕入高	6
(3) 在 庫	7
(4) 収 益	8
(5) 販売価格・仕入価格	9
3．設備投資の動向について		
(1) 設備投資の実施状況	10
(2) 設備投資の目的	11
4．資金繰り状況について		
(1) 資金繰り状況	12
(2) 現金・預金	13
(3) 金融機関借入	13
(4) 販売代金回収期間	14
(5) 仕入代金決済期間	14
5．経営上の問題点について	15

調 査 要 領

この報告は、岩手県内企業各社のご協力をもとに、下記の要領により景気動向の調査を行ったものです。

記

1. 実施時期 2003年6月下旬～2003年7月上旬
2. 調査対象期間 2003年4月～6月期実績
 2003年7月～9月期予測
3. 調査の方法 郵送による無記名のアンケート方式（年間4回）
4. 対象先 岩手県内企業 400社
5. 回答数 226通（回答率 56.50%）
 <内訳> 製造業 70社 建設業 61社 卸・小売業 95社
6. 調査の主要項目 (1) 業況について
 (2) 設備投資の動向について
 (3) 資金繰りの状況について
 (4) 当面する経営上の問題点について

以 上

【本文用語説明】

「増加」～グラフ上の「増加」および「やや増加」

「減少」～グラフ上の「減少」および「やや減少」

DI（ディフュージョン・インデックス）～

「景気動向指数」のことで、各項目について「増加」（増加およびやや増加）と回答した企業の比率から「減少」（減少およびやや減少）と回答した企業の比率を減じた数値である。この値が「0」の場合は、「増加」と「減少」が等しいことを示し、プラスとなるほど「増加」が多く、マイナスになるほど「減少」が多いことを意味する。

(注) 「上昇・低下」「楽になった・苦しくなった」「長くなった・短くなった」の回答についても同様に読み替える。

ただし、「販売代金回収期間」については、「短くなった」-「長くなった」で算出している。

概 況

～ 県内景況感 2 期連続で上向きに ～

2003 年 4～6 月期の岩手県内企業の景況感 D I は、全体で 78.0 と前期 84.6 より 6.6 ポイントと 2 期連続で上向きとなった。

前々回まで 2 期連続で景況感が下向き傾向で推移していたが、前回および今回調査において 2 期連続で上向きとなり、次期の見通しでも上向く見込みとなったことから、景況感については明るい兆しがみえてきた。

項目別に前回調査時（2003 年 1～3 月期実績）と比較してみると、景況感については 2 期連続で上向き明るい兆しがみえてきているほか、「売上高・出荷高」を始め「収益」も含めた業況に関する DI についても一部上向きの傾向となっている。また、「設備投資」に関しても前回下向きに転じたものが、今回調査でふたたび上向き、次期も上向き予想となっている。資金繰り状況についても今回調査において 4 期ぶりに上向きとなっており、総じて明るさが出始めてきており今後の動向を注視していきたい。

一方、国内経済全般をみると、設備投資等一部に持ち直しの動きもみられるものの、鉱工業生産では国内最終需要に力強さがみられず弱含んでいるなど、全体として横這いの動きを続けている。消費者物価は発泡酒やたばこの増税による影響もあり横這いとなったものの、企業向けサービス価格は、引き続き緩やかに下落している。また、雇用情勢については、企業の人件費抑制姿勢など労働力需要面の要因や、雇用のミスマッチなどの構造的要因から、完全失業率が高水準で推移するなど、厳しい状態が続いている。

また、最近の岩手県内経済をみると、消費財需要の減少懸念から、先行きの受注や生産に対する慎重な見方が根強く、企業の生産活動が横這いで推移しているほか、厳しい雇用・所得環境を反映して個人消費を中心とする最終需要も引き続き低調に推移するなど、全体として厳しい状況が続いている。

< 参考 >

岩手県内企業「景況感 D I」ワーストランキング

	調査回次	対象期間	景況感 D I
1	第 124 回	01 年 10～12 月	91.2
2	第 109 回	98 年 1～3 月	90.6
3	第 111 回	98 年 7～9 月	90.0
4	第 108 回	97 年 10～12 月	89.7
5	第 110 回	98 年 4～6 月	89.3

(1971 (昭和 46) 年以降)

1. 県内景況感について

全体のD Iは、今回調査では 78.0 と前期比 6.6 ポイント上昇し 2 期連続で上向きとなった。

また、各業種別のD Iをみると、製造業で 12.0 ポイントと大きく上昇したのを始め、建設業で 7.3 ポイント、卸・小売業で 1.3 ポイントそれぞれ上昇し全ての業種で上昇した。

2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

製造業でやや下向いたものの、建設業と卸・小売業では大きく上向きに転じた。

(2) 生産高または仕入高

卸・小売業の仕入高は 3 期ぶりに上向きに転じたものの、製造業の生産高は 3 期連続で下向きとなった。

(3) 在庫

製品・商品の在庫は、製造業、卸・小売業ともふたたび下向きに転じた。

(4) 収益

建設業および卸・小売業で大きく上向き、製造業でも僅かながら上向き、全体でも 3 期ぶりに上向いた。

(5) 販売価格・仕入価格

販売価格は 3 期ぶりに、仕入価格は 6 期ぶりに下向きに転じた。

3. 設備投資の動向について

全体でみると設備投資を「実施した」企業は 19.8%と、前回下向いたもののふたたび上向きに転じた。

なお、設備投資の目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」「生産販売能力の増加」の割合が引き続き高くなっている。

4. 資金繰り状況について

建設業と卸・小売業で上向き、製造業でほぼ横這いだったことから、全体では 4 期振りに上向きとなった。また、来期の見通しについては、製造業、卸・小売業で上向きの予想となっているものの、建設業で大きく下向き予想となっている。

5. 経営上の問題点について

上位の 4 項目、「売上・受注不振」「収益不振」「販売価格安」「過当競争」は変わっていない。

1. 県内景況感について

～ 2期連続で上向き～

[4～6月期の実績] 県内の景況感（前年同期比）についてみると、全業種では「良い」と答えた企業が0.5%（前期1.4%）、「悪い」が78.5%（同 86.0%）で、DIは78.0（同 84.6）と、6.6ポイントと2期連続で上向いた。

業種別の景況感（DI）をみると、製造業が67.6（同 79.6）、建設業が74.9（同 82.2）、卸・小売業が87.9（同 89.2）と全ての業種で上向いた。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「良くなる」とみる企業が1.4%、「悪くなる」が67.6%であることから、DIは66.2となり、4～6月期実績と比較すると指標は11.8ポイントと大きく上向く。

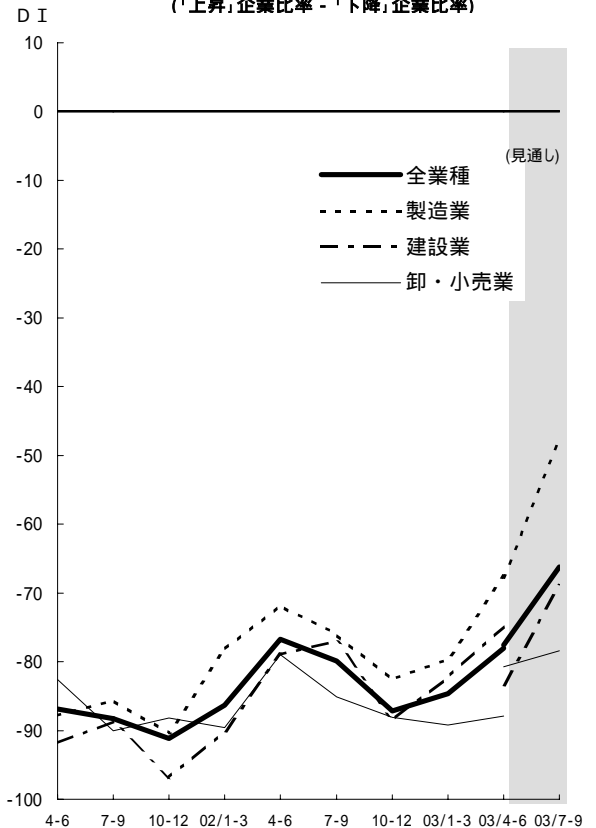
業種別にみると、製造業が47.4、建設業が69.0、卸・小売業が78.4となっており、4～6月期実績と比較して全ての業種で上向き、特に製造業で大きく上向き見込みとなる回答結果であった。

県内景況感(前年同期比)

		（%）					DI
	期	良い	やや良	不変	やや悪	悪い	
全業種	4～6月 (実績)	0.0	0.5	21.0	44.7	33.8	-78.0
	7～9月 (見通し)	0.0	1.4	31.0	42.7	24.9	-66.2
（製造業）	4～6月 (実績)	0.0	0.0	32.4	44.1	23.5	-67.6
	7～9月 (見通し)	0.0	3.0	46.3	32.8	17.9	-47.7
（建設業）	4～6月 (実績)	0.0	1.7	21.7	33.3	43.3	-74.9
	7～9月 (見通し)	0.0	1.7	27.6	36.2	34.5	-69.0
（卸・小売業）	4～6月 (実績)	0.0	0.0	12.1	52.7	35.2	-87.9
	7～9月 (見通し)	0.0	0.0	21.6	54.5	23.9	-78.4

県内景況感(前年同期比)

(「上昇」企業比率 - 「下降」企業比率)



2. 業況について

(1) 売上高または出荷高

～ 建設業、卸小売業で大きく上向く ～

[4～6月期の実績] 売上・出荷実績(前年同期比)をみると、全業種では「増加」と答えた企業が16.5%(前期 15.4%)、「減少」が56.9%(同 65.2%)となり、D Iは40.4(同 49.8)と、3期ぶりに上向いた。

業種別にD Iをみると、製造業 30.0(前期 28.8)、建設業 40.1(同 58.1)、卸・小売業 48.4(同 58.0)となった。製造業でやや下向いたものの、建設業、卸小売業で大きく上向いた。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し(前年同期比)をみると、全業種では「増加」とみる企業が15.3%、「減少」が48.2%であることから、D Iは 32.9で、4～6月期実績と比較して上向く予想となっている。

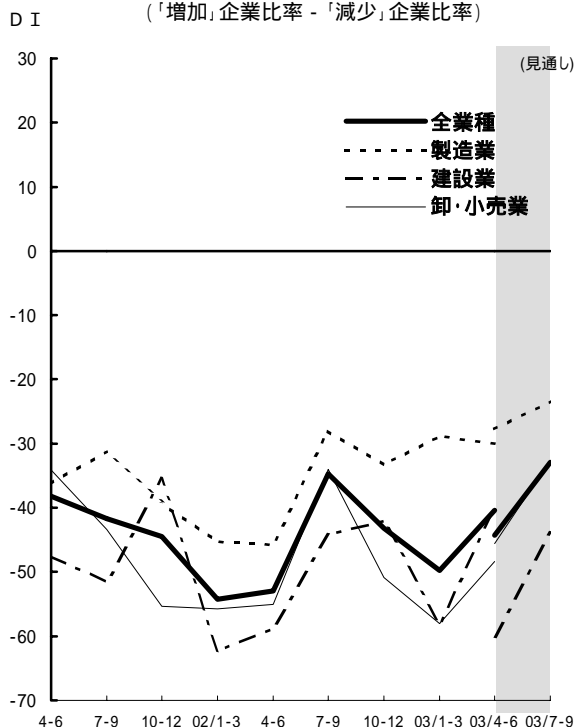
業種別にD Iをみると、製造業で 23.4、建設業で 44.0、卸・小売業で 32.6となっており4～6月期実績と比較して、製造業、卸・小売業で上向く見通しとなっている。

売上高または出荷高(前年同期比)

		(%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月 (実績)	1.8	14.7	26.6	38.7	18.2	-40.4
	7～9月 (見通し)	1.8	13.5	36.5	32.0	16.2	-32.9
(製造業)	4～6月 (実績)	0.0	21.4	27.2	35.7	15.7	-30.0
	7～9月 (見通し)	1.5	16.2	41.2	27.9	13.2	-23.4
(建設業)	4～6月 (実績)	5.0	13.3	23.3	31.7	26.7	-40.1
	7～9月 (見通し)	3.4	10.2	28.8	30.5	27.1	-44.0
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	1.1	10.5	28.4	45.3	14.7	-48.4
	7～9月 (見通し)	1.1	13.7	37.8	35.8	11.6	-32.6

売上・出荷動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(2) 生産高または仕入高

～ 製造業3期連続下向き、卸・小売業3期ぶりに上向く ～

〔4～6月期の実績〕 生産高・仕入高実績（前年同期比）をみると、製造業（生産高）では「増加」と答えた企業が20.8%（前期27.6%）、「減少」が48.6%（同55.2%）で、DIは 28.62（同 7.6）と、若干下向き3期連続の下向きとなった。

卸・小売業（仕入高）では、「増加」と答えた企業は12.2%（前期14.4%）、「減少」が55.5%（同67.8%）で、DIは 43.3（同 53.4）と3期ぶりに上向きとなった。

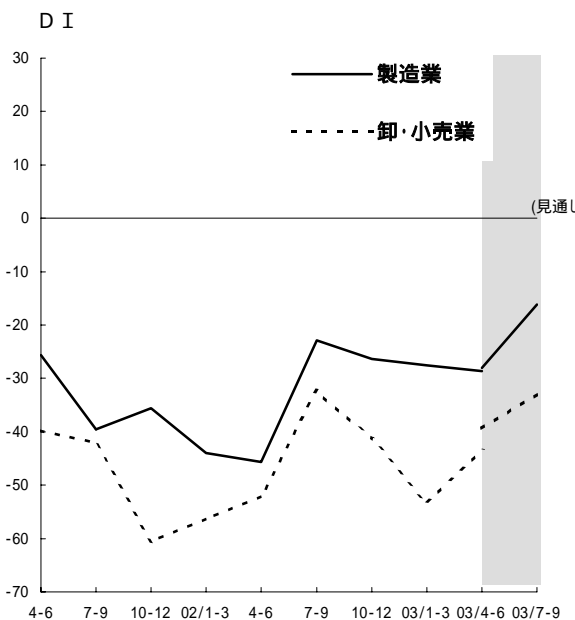
〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業（生産高）については、「増加」と答えた企業が19.1%、「減少」が35.3%であることから、DIは 16.2で、4～6月期実績と比較して、大きく上向きとなる。

卸・小売業（仕入高）については、「増加」と答えた企業が 12.1%、「減少」が45.1%であることから、DIは 33.0となり、4～6月期実績と比較し上向く見通しとなる。

生産高または仕入高(前年同期比)

		(%)					
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI
(製造業)	4～6月 (実績)	1.4	18.6	31.4	32.9	15.7	-28.6
	7～9月 (見通し)	0.0	19.1	45.6	26.5	8.8	-16.2
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	1.1	11.1	32.3	41.1	14.4	-43.3
	7～9月 (見通し)	1.1	11.0	42.8	34.1	11.0	-33.0

生産・仕入動向(前年同期比)
(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(3) 在庫

～ 製造業の製品在庫、卸小売業の商品在庫ともに下向く ～

[4～6月期の実績] 在庫状況実績（前年同期比）をみると、製造業では、製品在庫が「増加」と答えた企業は7.9%（前期14.3%）、「減少」が33.4%（同37.5%）であることから、DIは 25.3（同 23.2）となった。また、原材料在庫水準については「過大」が8.6%（同4.1%）、「適正」が81.1%（同81.6%）、「不足」が10.3%（同14.3%）である。

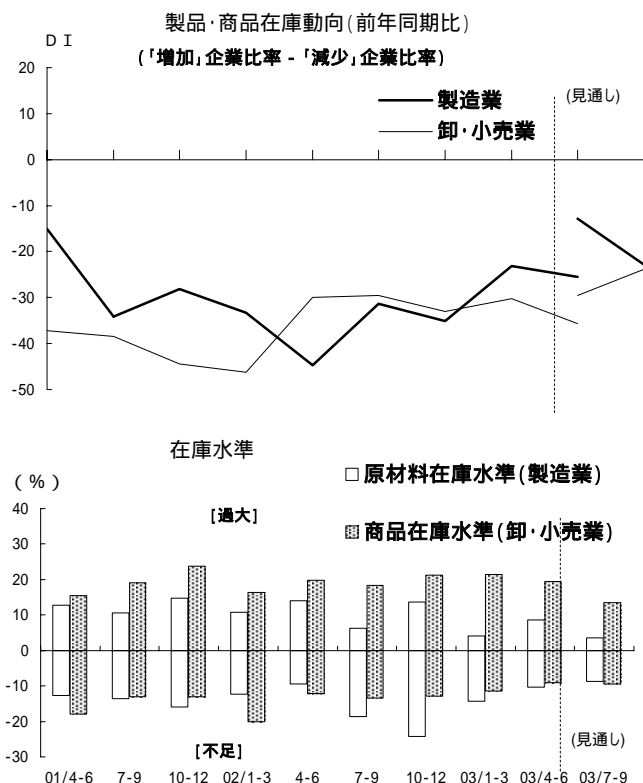
卸・小売業の商品在庫は、「増加」と答えた企業が6.0%（前期10.5%）、「減少」41.7%（同40.7%）であることから、DIは 35.7（同 30.2）となった。また、商品の在庫水準については、「過大」が19.5%（同21.5%）、「適正」が71.4%（同67.1%）、「不足」が9.1%（同11.4%）である。

[7～9月期の見通し] 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、製造業の製品在庫は、「増加」とみる企業が6.6%、「減少」が 29.5%で、DIは 22.9となっている。また、同じく原材料在庫水準については「過大」とみる企業が3.5%、「適正」が87.8%、「不足」が8.8%である。

卸・小売業の商品在庫については、「増加」とみる企業が8.3%、「減少」が32.1%であることから、DIは 23.8となっている。また、同じく商品の在庫水準については「過大」とみる企業が13.5%、「適正」が77.0%、「不足」が9.5%である。

製品・商品在庫（前年同期比）

		（％）					DI
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
（製造業）	4～6月 （実績）	0.0	7.9	58.7	28.6	4.8	-25.5
	7～9月 （見通し）	0.0	6.6	63.9	26.2	3.3	-22.9
（卸・小売業）	4～6月 （実績）	0.0	6.0	52.3	36.9	4.8	-35.7
	7～9月 （見通し）	0.0	8.3	59.6	25.0	7.1	-23.8



(4) 収 益

～ 全ての業種で上向く ～

〔4～6月期の実績〕 収益動向実績（前年同期比）をみると、全業種では「増加」と答えた企業が15.0%（前期13.2%）、「減少」が57.9%（同66.1%）であり、D Iは42.9（同 52.9）となり、3期ぶりに上向いた。

業種別にD Iをみると、製造業 37.7（前期 39.7）、建設業 40.6（同 53.7）、卸・小売業 48.3（同 60.9）となり、製造業、卸・小売業で3期ぶりに上向きに転じ、全ての業種で上向いた。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、全業種では「増加」とみる企業が11.5%、「減少」とみる企業が50.9%であることから、D Iは 39.4で、4～6月期実績と比較して若干上向く見通し。

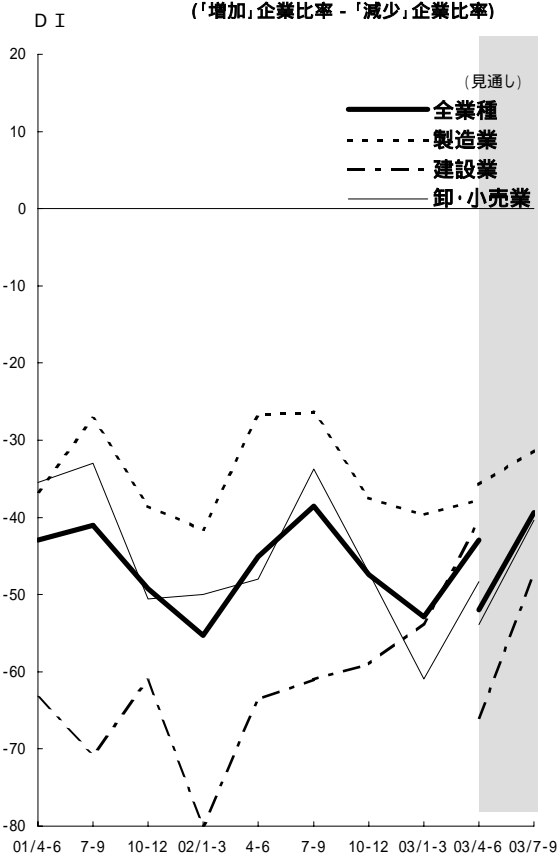
業種別にD Iをみると、製造業は 31.3、建設業 47.4、卸・小売業 40.4であり、4～6月期実績と比較して、製造業、卸・小売業で上向く予想である。

収 益(前年同期比)

		D I (%)					D I
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	
全業種	4～6月 (実績)	0.5	14.5	27.1	34.8	23.1	-42.9
	7～9月 (見通し)	0.9	10.6	37.6	31.2	19.7	-39.4
(製造業)	4～6月 (実績)	0.0	18.8	24.7	39.1	17.4	-37.7
	7～9月 (見通し)	0.0	14.9	38.9	35.8	10.4	-31.3
(建設業)	4～6月 (実績)	0.0	15.3	28.8	25.4	30.5	-40.6
	7～9月 (見通し)	0.0	8.8	35.0	21.1	35.1	-47.4
(卸・小売業)	4～6月 (実績)	1.1	10.8	27.9	37.6	22.6	-48.3
	7～9月 (見通し)	2.1	8.5	38.4	34.0	17.0	-40.4

収益動向(前年同期比)

(「増加」企業比率 - 「減少」企業比率)



(5) 販売価格・仕入価格

～ 仕入価格6期ぶりに下向く ～

〔4～6月期の実績〕 販売価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が2.2%（前期5.9%）、「低下」が46.2%（同46.8%）であることから、DIは44.0（同40.9）と、3期ぶりに下向きに転じた。

仕入価格（前年同期比）をみると、全業種では「上昇」と答えた企業が7.3%（前期13.5%）「低下」が23.1%（同25.5%）であることから、DIは15.8（同12.0）となり、6期ぶりに下向きに転じた。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期見通し（前年同期比）をみると、販売価格については「上昇」とみる企業が3.2%、「低下」とみる企業が46.4%であることから、DIは43.2で、4～6月期実績と比較して僅かに上向きとなる。

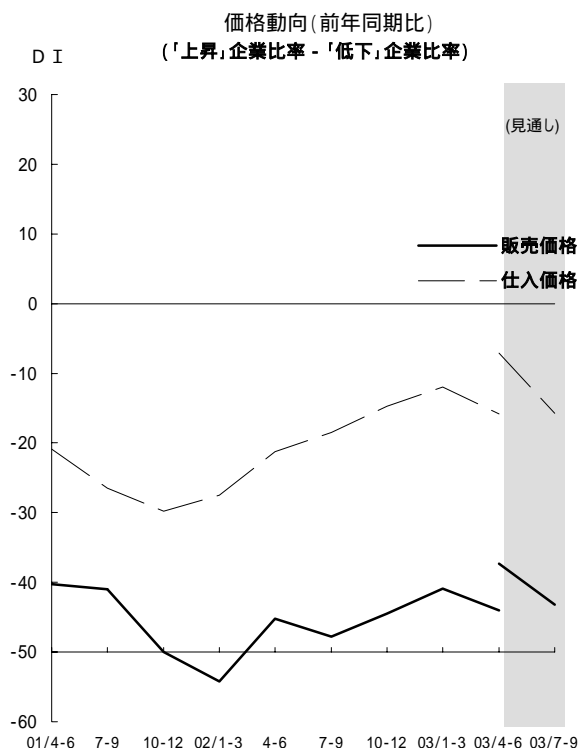
仕入価格については、「上昇」とみる企業が6.9%、「低下」とみる企業が22.6%であることから、DIは15.7で、4～6月期実績と比較してほぼ横這いとなる。

販売価格(前年同期比)

		(%)						
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	DI	
全業種	4～6月 (実績)	0.0	2.2	51.6	37.2	9.0	-44.0	
	7～9月 (見通し)	0.0	3.2	50.4	36.4	10.0	-43.2	

仕入価格(前年同期比)

		(%)						
	期	上昇	やや上	不変	やや低	低下	DI	
全業種	4～6月 (実績)	0.9	6.4	69.6	18.6	4.5	-15.8	
	7～9月 (見通し)	0.9	6.0	70.5	19.4	3.2	-15.7	



3. 設備投資の動向について

(1) 設備投資の実施状況

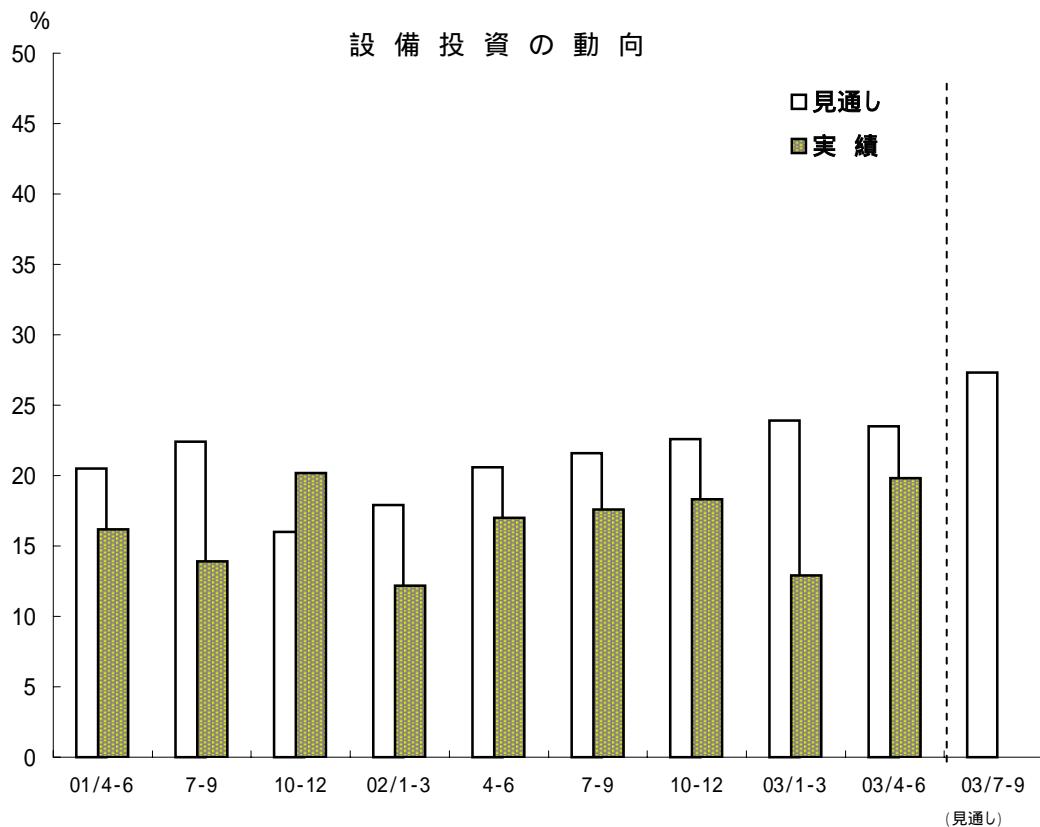
～ふたたび上向きに転じる～

[4～6月期の実績] 設備投資の実施状況をみると、全業種では「実施した」および「計画を縮小して実施した」と答えた企業は19.8%（前期12.9%）で、ふたたび上向きに転じた。

これを業種別にみると、製造業が27.9%（前期24.1%）、建設業11.9%（同3.6%）、卸・小売業18.7%（同11.5%）と、全ての業種で上向いている。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について全業種では「具体的な計画がある」と答えた企業は全体で13.4%（前期13.0%）、「計画はあるが具体化していない」は13.9%（同10.5%）、「計画はない」は72.7%（同76.5%）であった。「計画あり」は合計27.3%（同23.5%）とやや上向いてきている。

業種別にみると、「具体的な計画がある」および「計画はあるが具体化していない」と答えた企業は、製造業で40.3%（前期28.8%）、建設業で13.8%（同14.6%）、卸・小売業で26.4%（同25.6%）と、製造業と卸・小売業で上向いている。



(2) 設備投資の目的

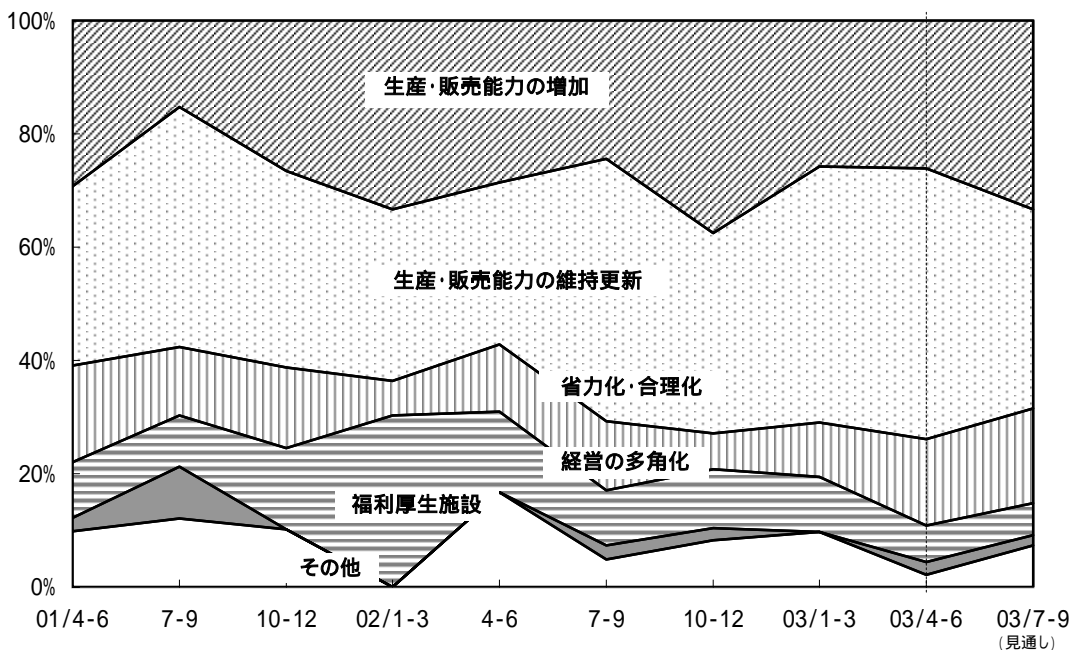
[4～6月期の実績] 今回の調査で「設備投資を実施した」と答えた企業(16.1%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」47.8% (前期45.2%) がふたたびトップとなり、「生産・販売能力の増加」26.1% (前期25.8%) が続き、「省力化・合理化」、「経営の多角化」と続いている。

業種別にみると、各業種とも「生産・販売能力の維持更新」がトップとなっている。

[7～9月期の見通し] 今後3ヵ月の設備投資について、「計画あり」と答えた企業(27.3%)の投資目的をみると、「生産・販売能力の維持更新」が35.2% (前期45.2%) と最も多く、以下、「生産・販売能力の増加」が33.3% (同31.8%)、「省力化・合理化」16.7% (同6.8%) の順位となっている。

投資目的については、実績と同様全ての業種で「生産能力の維持更新」がトップとなっている。

設備投資の目的



4. 資金繰り状況について

(1) 資金繰り状況

～ 4期ぶりに上向く ～

[4～6月期の実績] 資金繰り状況（前期比）は、全業種では、「楽になった」とする企業が9.9%（前期7.3%）、「苦しくなった」が40.8%（同46.4%）であることから、D Iは30.9%（同39.1%）と4期ぶりに上向いた。

業種別にD Iをみると、製造業が27.9（前期27.6）、建設業が31.6（同46.5）、卸・小売業が32.6（同41.9）であり、建設業と卸・小売業は上向いたものの製造業はほぼ横這いとなった。

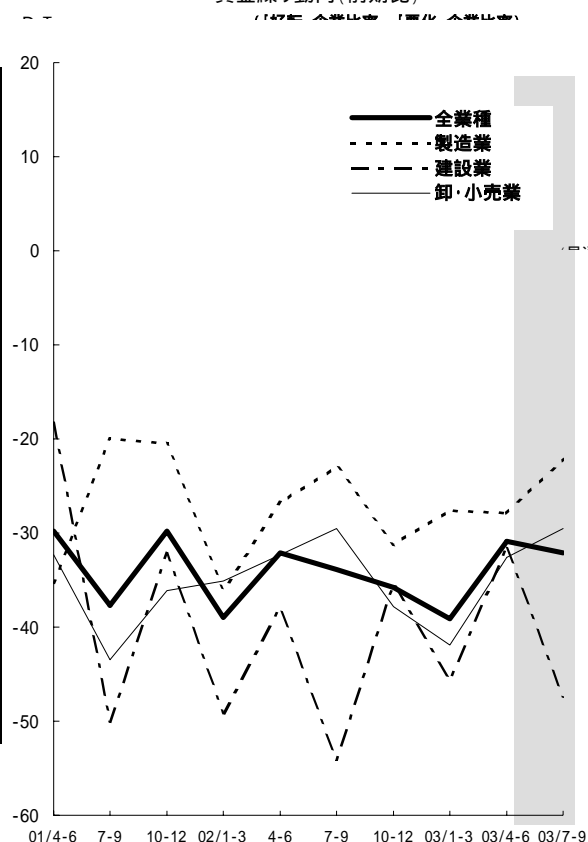
[7～9月期の見通し] 7～9月期の見通し（当期比）をみると、全業種では「楽になる」とみる企業が8.1%、「苦しくなる」が40.1%であることから、D Iは32.0となり、4～6月期実績（30.9）と比較してやや下向きとなる。

業種別にD Iをみると、製造業22.1、建設業47.4、卸・小売業29.5となっており、4～6月期実績と比較して、製造業と卸・小売業で改善することを予想している。

資金繰り(前期比)

		（％）						
	期	楽	やや楽	不変	やや苦	苦	D I	
全業種	4～6 (実績)	0.0	9.9	49.3	29.6	11.2	-30.9	
	7～9 (見通し)	0.0	8.1	51.8	25.2	14.9	-32.0	
(製造業)	4～6 (実績)	0.0	16.2	39.7	38.2	5.9	-27.9	
	7～9 (見通し)	0.0	10.3	57.3	22.1	10.3	-22.1	
(建設業)	4～6 (実績)	0.0	6.7	55.0	28.3	10.0	-31.6	
	7～9 (見通し)	0.0	5.1	42.4	35.6	16.9	-47.4	
(卸・小売業)	4～6 (実績)	0.0	7.4	52.6	24.2	15.8	-32.6	
	7～9 (見通し)	0.0	8.4	53.7	21.1	16.8	-29.5	

資金繰り動向(前期比)



(2) 現金・預金

[4~6月期の実績] 現金・預金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が9.4%(前期5.9%)、「減少した」が44.9%(同55.6%)であることから、DIは35.5(同49.7)と、上向いた。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が6.8%、「減少する」が43.3%であることから、DIは36.5(当期35.5)で僅かに下向く予想となっている。

(3) 金融機関借入

[4~6月期の実績] 金融機関借入金(前期比)については、「増加した」と答えた企業が14.0%(前期14.6%)、「減少した」が31.2%(同30.3%)であることから、DIは17.2(同15.7)と上向いた。

[7~9月期の見通し] 7~9月期の見通し(当期比)をみると、「増加する」とみる企業が18.6%、「減少する」が22.2%であることから、DIは3.6(当期17.2)と、大きく上向く予想となっている。

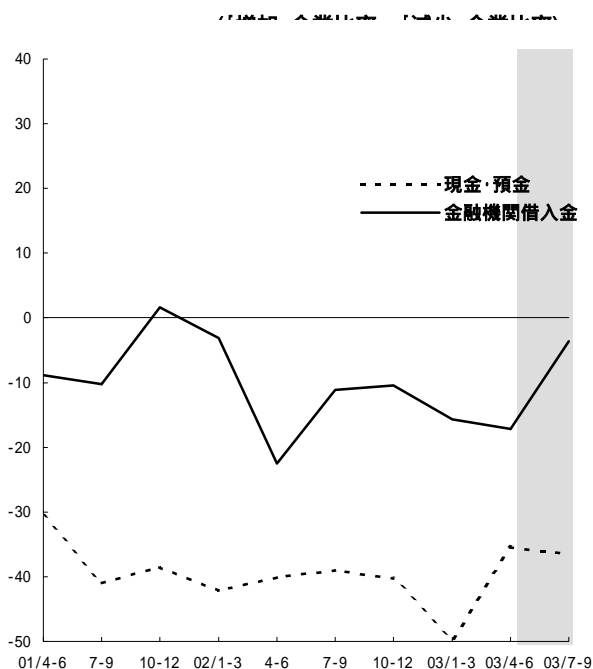
現金・預金(前期比)

		(%)						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI	
全業種	4~6 (実績)	0.4	9.0	45.7	31.4	13.5	-35.5	
	7~9 (見通し)	0.0	6.8	49.9	28.4	14.9	-36.5	

金融機関借入金(前期比)

		(%)						
	期	増加	やや増	不変	やや減	減少	DI	
全業種	4~6 (実績)	2.7	11.3	54.8	27.6	3.6	-17.2	
	7~9 (見通し)	5.0	13.6	59.2	19.5	2.7	-3.6	

現金・預金動向(前期比)
金融機関借入金(前期比)



(4) 販売代金回収期間

〔4～6月期の実績〕 販売代金回収期間（前期比）については、「短くなった」とする企業が4.0%（前期2.9%）、「長くなった」が22.4%（同24.6%）であることから、D Iは 18.4（同 21.7）となった。また、73.6 %（同72.5%）の企業は「変わらない」としている。

〔7～9期の見通し〕 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「短くなる」とみる企業が4.0%、「長くなる」が20.6%であることから、D Iは 16.6（当期 18.4）となる。また、75.4%の企業は「変わらない」とみている。

(5) 仕入代金決済期間

〔4～6月期の実績〕 仕入代金決済期間（前期比）については、「長くなった」とする企業が3.2%（前期3.9%）、「短くなった」が6.3%（同6.9 %）であることから、D Iは 3.1（同 3.0）となった。また、90.5%（同89.2%）の企業は「変わらない」としている。

〔7～9月期の見通し〕 7～9月期の見通し（当期比）をみると、「長くなる」とみる企業が2.3%、「短くなる」が7.2%であることから、D Iは 4.9（当期 3.1）となる。また、90.5%の企業は「変わらない」とみている。

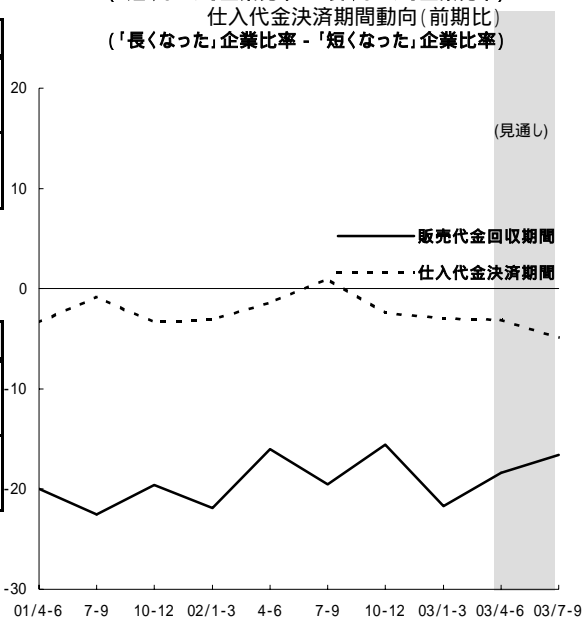
販売代金回収期間(前期比)

		（％）					D I
	期	短く	やや短	不変	やや長	長く	
全業種	4～6 (実績)	0.0	4.0	73.6	18.8	3.6	-18.4
	7～9 (見通し)	0.4	3.6	75.4	15.7	4.9	-16.6

仕入代金決済期間(前期比)

		（％）					D I
	期	長く	やや長	不変	やや短	短く	
全業種	4～6 (実績)	0.0	3.2	90.5	5.4	0.9	-3.1
	7～9 (見通し)	0.0	2.3	90.5	6.3	0.9	-4.9

販売代金回収期間動向(前期比)
 (「短くなった」企業比率 - 「長くなった」企業比率)
 仕入代金決済期間動向(前期比)
 (「長くなった」企業比率 - 「短くなった」企業比率)



5. 経営上の問題点について

～ 「売上・受注不振」 が依然トップ ～

4～6月期における経営上の問題点をみると、全業種では「売上・受注不振」34.6%（前期37.5%）、「収益不振」17.8%（同17.1%）、「販売価格安」16.1%（同10.7%）「過当競争」15.9%（同14.3%）の順となり、「販売価格」と「過当競争」が順位を入れ替えたが、項目に変化はなかった。

業種別に上位3項目をみると、製造業では「受注不振」30.8%（前期30.3%）、「販売価格安」20.0%（同17.4%）「収益不振」6.2%（同13.8%）。建設業では「受注不振」40.9%（同45.5%）、「過当競争」21.7%（同19.1%）「収益不振」19.1%（同20.0%）。卸・小売業では「売上不振」33.1%（同37.4%）、「収益不振」19.3%（同17.5%）、「過当競争」15.5%（同12.9%）となっている。

いずれの業種とも「売上・受注不振」がトップとなり、次いで「収益不振」「過当競争」「販売価格安」が上位を占めている。

